

船橋納税貯蓄組合連合会 会長賞

将来のこどもたちのために

船橋市立御滝中学校

第三学年 吉村 喬

船橋市では、市内の中学二年生が参加する「こども未来会議室」が開催されています。

そこでは、中学生ならではの視点から市の現状を見つめ、よりよい街を作るための意見・方策を代表生徒が市長の前でプレゼンして、それに対しての意見交換をしていきます。会議で出た提案によって実際に動き出したプロジェクトも数多くある画期的な催しです。

僕は昨年それに参加しました。二年生に事前アンケートを取って学校の設備を改善するというテーマを決めて、その根拠となるデータを集めたり現状を示すための写真を撮ったりして、準備をしました。市長には「まずは現状を調べてみたい」とコメントを頂くことができました。その提案を考えるうえで、ふと考えました。この街をよりよくするための財源はどこから来ているのか。

船橋市の歳入予算を調べてみると主に市民

が納める住民税と国税や県税から割り振られる支出金などから成り立っていました。この街で暮らす人々から集められた資金なのだと改めて確かめました。もう学校に通うことのない大人の人たちの財産が学校の環境を改善するために使用されているのです。それを考慮すると僕たちの提案にも責任あるものでなければならぬと気づかされました。

「こども未来会議室」では、ほかの学校から、渋滞を改善するために道路を整備すること、資源ごみやごみ処理で出た灰を有効活用すること、市内で新たなイベントを開催し活性化すること、こどものための施設を作ることなどが提案されました。

公共の設備をつくることや、イベントを開くことにもコストがかかってしまいます。それぞれの提案を実現させるためにもやはり税金が必要です。しかし、税金にも限りがある

ので実際にできることとできないことは分かれてしまいますが、市からの回答には、限りある予算を使って最大限のことをやりたいとありました。

税金が増えれば行うことのできる公共事業は増えますが、人々の負担も増えてしまいます。税金が減れば、一人ひとりの負担は減りますが、公共サービスが低下してしまいます。増税する、減税すると政治のニュースが届くことがあります。それは自分たちの生活に直結する課題なので自分事としてとらえ、自分なりの意見を持つことが必要だと考えます。僕たちの訴えた学校の設備を改善するという提案が時間と費用をかけて少しずつ実現されていき、将来学校に通うこどもたちが便利に過ごせるように、僕も税を納めて貢献していきたいです。